

2022年8月実績概要（メモ）

（2022. 9. 22）

前月に前年並みとなったエチレン生産も再び減産、誘導品の生産も前年割れの品目が多めとなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 494, 200トン

前月比 +2. 2% (+10, 700トン)
 前年同月比 ▲3. 7% (▲19, 100トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	－	－
定修要因等	＋ 7. 3 %	＋ 3. 4 %
能力増減	－	－
稼働率変動	▲ 5. 1 %	▲ 7. 1 %
生産増減率	＋ 2. 2 %	▲ 3. 7 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月90. 0%* → 当月85. 9% ← 前年同月92. 0%
 定修プラント：前月 2社2プラント → 当月 2社2プラント ← 前年同月 1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、定修規模差や稼働率要因から、PP、PS、MMA モノマー、EG、SBR など9品目がプラス。HDPE、SM、ANはマイナス、その他の5品目も微減となった。

前年比は、定修規模差と稼働率要因等からPP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、SBR、ベンゼン、キシレンなどの12品目がマイナス。LDPE、HDPE、BRなどの5品目のみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、LDPEは定修規模の増加があったが、稼働率の上昇がこれをほぼ相殺し微減、HDPEは稼働率の低下からマイナス。PP、PSは定修規模の縮小からプラスとなった。

前年比は、LDPE、HDPEは定修規模の縮小や稼働率要因からプラス。PPは稼働率の低下、PSは定修規模の増加からいずれもマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドとしては、前月に対し、上向きの兆候がみられるも、物価上昇がこれに水をさし、マインドとしては前月と同様に弱含みの基調が続いている。産業分野では、国内産業の生産計画は3カ月連続して上昇が見込まれているが、部品供給不足の懸念が完全に払拭されたわけではなく、下振れ要因が依然として存在している。

樹脂の出荷は、夏季休暇に伴うユーザー産業の稼働日数の減少もあり、前月比は、LDPE、HDPE、PP、PSともに二桁台のマイナスとなった。

前年比では、LDPEのみは微増となった。HDPE、PP、PSの3樹脂は、前年を下回り、8月単月の出荷量としては近年では最低レベルの出荷となった。

分野別の出荷動向では、LDPEは加工紙分野等が前年を上回ったが、その他の主要分野はマイナス。HDPEも主要分野の出荷はいずれも前年割れとなった。PPは出荷全体ではマイナスが続く中、フィルム分野等で前年を上回る分野も垣間見られている。PSは、包装分野、雑貨・産業用を中心として総じて出荷が減少することとなった。

ハ) 輸出

前月比は、中国の一部の都市におけるロックダウン影響のほか、深刻な電力不足から各種工場の停止等もあり経済活動への障害がみられた。これに伴い樹脂の輸出もLDPE、HDPE、PSは前月比、前年比ともにマイナス。PPは前月、前年の水準がいずれも低めであったため比較上プラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLDPE、HDPE、PP、PSで増加し、在庫率(季節調整済)も、LDPE、HDPE、PP、PSで上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PSは高め、PPも若干高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LDPE	+42,300	3. 2	3. 6
HDPE	+14,000	3. 7	4. 0
P P	+49,100	3. 2	3. 3
P S	+12,600	2. 3	2. 4

以上

前月からの修正を*で付記